事業所自己評価シート

令和３年度

職員による自己評価

Ａ環境面
・コロナ禍において、子ども達に感染対策を身に着けてもらい、日常的に対策に取り組む事ができた
・除菌・消毒・換気は徹底できた

Ｂ児童への支援内容
・小集団での活動（主に屋外）に積極的に取り組む事ができた

Ｃ関係機関との連携
・十分な対応が取れていたかどうかは、再考の余地が残った。また具体的にどの様な機関とどの様な連携が必要なのかという事についての知識が不十分

Ｄ保護者への説明責任・信頼関係
・保護者との連携はきめ細やかに日常的に行っている

Ｅ非常対応
・コロナに対する臨機応変な対応が必要とされたが、出来る限りの事は行い、感染予防に留意した

保護者による評価

Ａ環境面
・コロナ対策として、出来るだけ屋外に出たり、在宅の支援を受ける事ができた

Ｂ児童への支援内容
・障害の無い子との交流は、特に意識していない
・いつも楽しく安心して通うことが出来ている

Ｃ事業所からの情報発信
・電話やメールで個別にやりとりをしている
・SNS での発信は無い

Ｄ非常対応
・コロナでイレギュラーな対応が多かったが、お手紙やメールでお知らせがあった
・発熱時の欠席の基準などが明確でわかりやすかった

事業所内での分析

【共通点】
・コロナ対応については、はじめての事が多く、判断に困る事があったが、明確に利用基準を設けて判断する際に役立てる事ができた
・子どもが利用を楽しみにしている
【相違点】
・コロナにまつわる利用の判断基準が保護者によって、大きく異なっていた

分析・検討してみて…

事業所の強み

・イレギュラーな場合の臨機応変な対応と、適切な情報発信

・保護者との信頼関係、各家庭の事情に応じた、個別の対応

・子ども達が安心して、楽しく来所できている

・コロナ禍において、家庭とは別に、安心して他者と関われる居場所を提供できた

事業所の改善点

・マスクを外してしまう子どもに対する声掛けや対応

・SNS の利用について、保護者の要望を聞き取り、活用の必要性についての検討が必要

・関係機関との連携にあり方について、保護者の要望を踏まえたうえで、どの様な機関とどの様な連携が可能か、検討する

事業所の改善への取り組み

・マスクの着用の習慣化には、感覚過敏がある子どもに関しては、かなり時間がかかるが、家庭とも連携して、短い時間からでいいので、つけられたらほめる、という事を意識して、マスク嫌いを強めないように、根気強く定着を図る。

・情報発信の方法については、全体周知については保護者によってかなり温度差があるので、引き続きどの様なカタチでの発信が必要か、要望をお聞きし、検討を続ける。当面は個別に情報発信する事をメインに、ブログなどで一般の方にも見て頂けるカタチでの情報発信を行う。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

コロナで幼稚園や学校等で、様々なイベントや行事が中止され、休み時間や放課後における子ども同士の集まりも制限される中で、児童発達支援及び放課後等デイサービスにおいて、子ども同士で安心して楽しく過ごす時間を持てる事が、いかに子どもとその保護者にとって、大切であるか、ということを実感した１年でした。今後も安心して利用してもらえるよう、アンケートで明らかになった改善点への取り組みをしっかり行いたいと思います。

事業所名　　リノおひさまのたまご

担当者　　渡部　淳子